

vol. 2293

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館  
TEL/(097)556-2838 FAX/(097)556-8998 MAIL/ohtwu@view.ocn.ne.jp

# 大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



## 今号の掲載内容 (掲載順)

- JTU 未来プロジェクト
- 学びと交流の旅2022 in 筑豊・北九州
- 臨時・非常勤のつどい/就労支援説明会
- 第502回 中央委員会

## JTU 未来プロジェクト

とき 2月11日~12日 ところ 日本教育会館

「JTU未来プロジェクト」が開催され、大分高教組からは2名が参加しました。これは、昨年度までは「労働学校」として企画されていたものを、形態や日程を一部変更したものです。

ねらいは

- ①青年組合員やこれまでに組合役員未経験の組合員を次世代リーダーとして期待し、必要な知識等を身につける機会とする。
- ②日教組運動への理解を広げ、組織拡大・強化につなげる。
- ③すべての単組が参加し、日教組運動の継承と発展をはかる。

で、参加者は事前に「日教組の成り立ちと使命」や「日教組運動と政治の関係を考えてみよう」等、8講座をWebで学習しました。

当日は、職場交渉や教育研究活動、組織拡大についての講座や、グループディスカッションやロールプレイング等が行われました。

日教組運動を継続していくために、若い組合員が知識を身につけ、運動を活性化させていくことはとても重要です。今後も、あらゆる活動に関わっていきましょう。

### 〈参加者還流報告〉

○2022年度JTU未来プロジェクトに参加させていただき、一番に感じたことは「なかまの存在の大切さ」です。働き方改革を進める上での課題は多いと分かっていても、実際は日々の業務に追われ、職場の働き方改革について考えたり、同僚と話したりする余裕がありませんでした。今回の研修で全国から集まった「なかま」と現場の課題について意見交換をするのみでなく、大分県外の状況を知ることもでき、有意義な時間となりました。

私自身、今回のような研修に初めて参加し、とても良い経験になりました。校長交渉の要請書の書き方を学び、ロールプレイングをしたり、オルグの流れを学んだり、実践的な研修で、今後の組合活動に活かしていきたいと感じています。

今回の研修で全国の「なかま」に出会い、このような貴重な機会をいただいたことに感謝しています。高教組に入って良かったと改めて感じるとともに、今後も教職を続ける上での安心感を得ることができました。まずは身近な「なかま」とともに、より魅力的な教職を目指してとりくんでいきたいです。 (中津南分会 長岡 二葉)

○青年層を対象に、従来、労働学校と呼ばれていたとりくみが「JTU未来プロジェクト」と新名称になって対面で実施されました。1月の1ヶ月で約20分の基礎講座を8つ視聴し、東京で2日間、発展講座を受講するというものです。初め

は緊張していた参加者も、講座が進むにつれ、自然と打ち解けていきました。全国に仲間がいる。知り合えたことがとても嬉しく、元気を貰うことができました。日政連議員の水岡俊一さん、吉川元さん、古賀千景さんも来てくださり、温かいメッセージと国会の第一線で教育課題を訴え続けていることを話してくださいました。私たちの声一つ一つがあつてこそ、教育を取り巻く環境を変えていくことができるのだと思います。

今回、こうして日本教育会館に集まり、共に学び、語り合い、共に行動することで、元気・活力を貰うことができました。これこそが組合活動の良さだと思います。ぜひ来年度、他の方にも参加してもらい、組合員である誇りとエネルギーを実感してほしいです。  
(国東分会 本部執行委員 隅田 智之)

## 学びと交流の旅2022 in 筑豊・北九州

とき 2月18日～19日

ところ 福岡県

福岡高教組が企画し、九州の各県の高教組に参加を呼びかける「学びと交流の旅」が開催され、大分高教組からは新組合員・青年部組合員を中心に8名が参加しました。これは、「フィールドワークを通し、人権や反戦・平和について学ぶ」「高教組組合員同士のつながりを創り、他単組青年部との交流を通して連帯を深める」ことを目的に開催されています。新型コロナウイルス感染拡大のため、20、21年度は福岡高教組のみの行事となりましたが、3年ぶりに各県も参加する「学びと交流の旅2022 in 筑豊・北九州」が実施され、熊本・沖縄からも高教組組合員が参加しました。

1日目は、直方市石炭記念館や川崎町の坑道の見学をしました。

2日目は、森鷗外の住居跡を訪れた後、「北九州市平和のまちミュージアム」に行きました。このミュージアムの建つ地は、かつて小倉陸軍造兵廠があり、8月9日に長崎に投下された原子爆弾の第一目標地点でした。しかし、前日の八幡大空襲により煙で視界が遮られたため、長崎に変更したそうです。館内には多くの資料や360度シアターがあり、戦争の悲惨さを痛感できました。

最後に小倉城を訪れ、解散しました。

参加者の感想を一部紹介します。

○「第5回 学びと交流の旅2022 in 筑豊・北九州」が2月18日～19日に開催されました。1日目の直方市石炭記念館では、館長の八尋さんに、筑豊地名の由来、筑豊炭鉱の歴史、模擬坑道の見学、石炭の燃焼実験など、案内や説明をしていただきました。午後からは、井手川泰子さんの講演を直方市中央公民館で聴きました。戦争体験、炭鉱で生活する女性の話など、当時の様子を鮮明に物語る講演でした。その後実際の民家にある炭鉱の坑道を見学したところ、圧巻でした。2日目は北九州市平和のまちミュージアムを訪れ、平和の尊さ、次世代に平和を繋げることの大切さを実感しました。今回、初めての参加で大変充実したフィールドワークでした。またこのような学習会があれば参加して、平和への想い、また人とのつながりができればいいなと思いました。  
(竹田分会 伊勢嶋美香)

今回の旅で、学習だけでなく九州の高教組組合員の交流を深めることができました。

福岡高教組のみなさんには、企画や当日の案内をしていただき、大変お世話になりました。

参加したみなさん、お疲れ様でした。

# 臨時・非常勤のつどい / 就労支援説明会

とき 2月23日(木) ところ 第1会議室

「臨時・非常勤のつどい / 就労支援説明会」を開催し、組合員を含む6名が参加しました。

会では、まず仁木書記次長が、就労支援に関して、人事異動期の日程や留意点を説明しました。特に、「勤務時間」「賃金」「休暇」等の勤務労働条件については、必ず文書で確認するように伝えました。

後半は、参加者で日頃困っていることや悩み等を出し合いました。「非常勤教職員は庁内連絡



を見ることのできない」「非常勤教職員は、パソコンで出張申請をすることができない」「授業と授業の間に空きゴマがあり、仕事をしているがその分の賃金は支払われない」等々、多くの声を聞くことができました。

また、参加者の1名が加入につながりました。

高教組はこれからも、臨時・非常勤教職員に改善にむけてとりくんでいきます。

## 〈参加者の感想〉

- 自分が気付いていない問題や、改善されたこと等話を聞いて良かったです。まだ知らない問題があるかもしれないので、一度自分の勤務状況について確認したいと思います。
- 現場のリアルな声が聞いて良かったと思います、声をあげることの重要性を改めて感じました。制度が改善していることもあり、これからも良い方向にいけば良いと思う。
- 他の非常勤の先生方の話を聞いて、よい機会になりました。大変な中で、不満を感じながらも仕方なく働かざるを得ない状況にあるんだと感じました。みなさんの生の声を聞いて良かったです。
- 現場でも声はあげていたが、このつどいに出てさらに意見をあげることができて良かった。

## 第502回 中央委員会

とき 2月25日(土) ところ 別府豊泉荘

第502回中央委員会を開催しました。

会に先立ち、大分県議会議員の原田孝司さん、別府市議会議員の森山義治さんより、あいさつがありました。

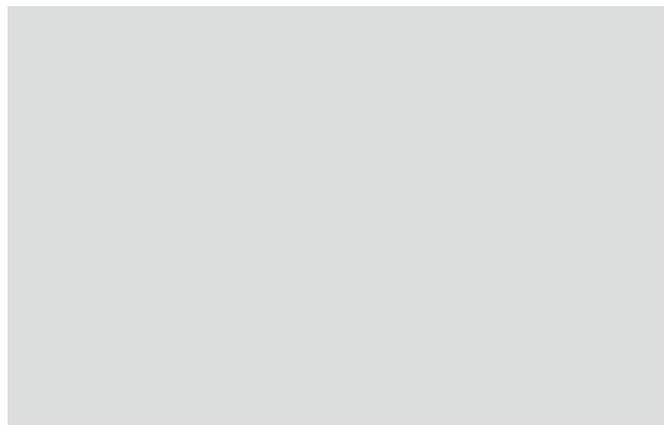
### 委員長あいさつ (要旨)

ロシアのウクライナ侵略が2年目に入りました。昨夜、自宅でそのニュースを見ている最中に、大きな音が聞こえ家の外に出てみると、おそらく軍用機でしょうか、旅客機よりもはるかに低い高度を小型機が飛んでいきました。2月16日から始まった日出生台での日米共同演習との関連があるかもしれません。戦争の報道を見るにつけ、軍備増強

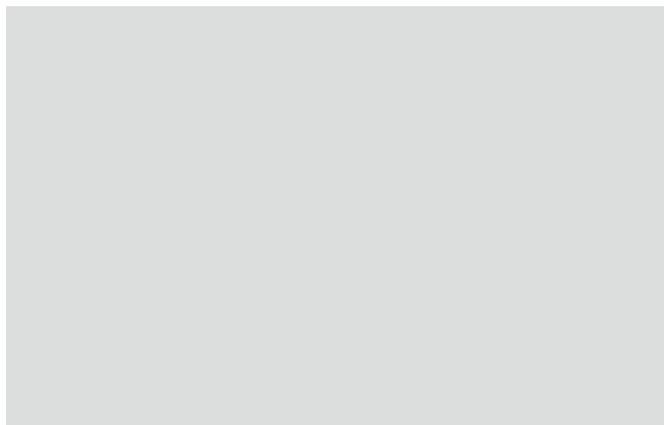
を訴える側の人々には、想像力が欠如しているとの思いを強くします。破壊された町にすみ、瓦礫の前にたたずむ自分の姿を想像できないのでしょうか。平和運動センターは、日出生台対策会議と共同で16日に日出生台のゲート前で演習反対の抗議集会を開きました。今回の演習が突然の発表であったため、大がかりな体制が組めず、少人数の集会となりました。アメリカ海兵隊の日出生台への演習移転以来、ずっと反対運動にとりくんでいる畜産農家の衛藤洋次さんが、いつものように参加してくれました。今回は小規模で申し訳ないという、衛藤さんから「人数の問題やねえんや、あんたたちがいつもこうして県内のあちこちから来ちくる、それが地元の反対運動の力になるんや」と力強い言葉が返ってきました。昨今の情勢から、心が挫けそうになることも多い反戦平和のとりくみですが、わたしたちはしっかりと声を上げ続けていかなければなりません。

さて、教職員の働き方改革についても、なかなか成果が現れてきませんが、2つ大きな動きが起こっています。一つ目は、国全体の動きですが、文科省が22年度に実施した教員の超勤実態に関する全国調査の結果がまとめられようとしています。本来であれば、この調査結果にもとづいて中教審で審議される内容ですが、22年11月に、自民党が萩生田元文科大臣を座長とする部会を設置し、そこでの検討内容を23年5～6月に提示する政府方針に盛り込むとしており、展開が急になってきました。自民党部会では、結論ありきの議論で、教職調整額を数パーセントあげて決着させようとしていると、日政連議員から情報があり、日教組としては全国的な運動を準備しています。二つ目は、県内の動きです。21年3月に給特法改正にあわせた県条例改正がなされましたが、その中の教員に対する「1年単位の変形労働時間制」について、大分県教委が22年度中に実施要領を作成し校長に提示することを目論んでいましたが、とりあえず22年中の発表は先送りさせました。帳簿上は振休をとりながら、勤務している教職員がいる実態を見過ごしながら、勤務の割り振りで「休日のまとめ取り」などは、絵に描いた餅に過ぎません。その他、実施要領案にはさまざまな問題点がありますが、詳細については職場討議資料を作成したので分会での学習を深めてください。大前提として「限定4項目以外に教員に超勤をさせない」とする給特法がある限り、わたしたちの勤務実態改善は進みません。

課題が山積する中、年度末年度初めの人事闘争や統一自治体選挙など、並行する大変重要なとりくみも多くあります。高教組運動の前進のため、真摯な討論をよろしくお願いします。



議長：(左から) 三石修さん(日田支援分会) 伊藤豪さん(安心院分会)



議事運営委員：(左から) 田畑幸子さん(別府支援石垣原分会)、清瀬宣裕さん(大分舞鶴)、佐藤素子さん(臼杵)

## 質疑応答

第1号議案：とりくみの中間総括に関する件

【3】賃金引き上げ、生活向上のとりくみ

中津東：事前に質問も出したが、退職金に対する課税強化について詳細を知りたい。

本部回答：政府税調で、退職所得控除の見直し意見が出ている。まだ1つの意見の段階であり方向性が確定したわけではないが、今後も注視していく。

【4】平和と民主主義を守り発展させるとりくみ

爽風館定時制：新型コロナウイルスの予防対策の中で、子どもたちにいろいろな弊害が出てきている。このことに対して、前回の中央委員会から具体的にどのような動きを行ったのか。

本部回答：医学的な判断が分かれていることから、現在、組織として動くことは難しいが、マスクを外せない子どもたちがいるなど、問題としては捉えている。今後状況を見ながら検討をしていく。

## 意見・討論

大分商業分会から、以下2つの修正案が出されました。本部は意向を汲んだ上で見解を述べ取り下げとなりました。

### 修正案①

【4】平和と民主主義を守り発展させるとりくみ

議案書18項左26行目

(原文) 反戦・平和、脱原発をめざし、平和運動センター・連合大分の主催する各種集會に積極的に参加します。

(修正案) 反戦・平和、脱原発をめざし、平和運動センター・連合大分と共闘し、「防衛費増額」「原発60再稼働」問題等、私たちの未来を脅かす問題に積極的に声をあげ、その解決に向け闘っていきます。

(修正理由) 私たちのスローガンである「教え子を再び戦場に送るな」が脅かされ、平和探究が大変困難になっている今こそ、高教組として先頭に立ち、地方から声をあげ、全国、世界規模の運動にしていくべきである、と考えます。決して放っておくべきではない事案です。

本部見解：修正案の主旨を受け入れるが、「反戦・平和・脱原発」の方針に沿って活動するという議案に含まれている、とご理解いただきたい。「教え子を再び戦場に送るな」というスローガンのもと、今後もしっかりととりくんでいく。

### 修正案②

【6】組織強化・拡大し、運動を前進させるとりくみ

議案書21項左15

(原文) なし

(修正案) ※追加

- ①ともに働く仲間の実態調査を行い、職場環境における問題点を把握し、解決へ向け一緒に努力します。
- ②賃金条件に向け、現行の職務に見合う賃金体系、今後の定年延長における賃金体系を検討、提案させます。
- ③特に定年延長については、定年者に関わらず、すべての職員に周知徹底させます。
- ④再任用の先生方に対して、「再任用勤務条件についての闘い」を理解・支援し、退職後の組合継続を積極的にお願ひします。

(修正理由)

再任用の先生方の賃金・勤務条件が悪く、困っている先生方は多くいます。また、定年を控えた先生方もその姿や実態を見て、不安を大きくしています。再任用の先生方と一緒に組合活動を頑張っていけば、組織率も改善されると思います。再任用の先生方を助けてあげてください。お願いします。

本部見解：再雇用の方とはいろいろと話をしている。修正案の内容は、実際にとりこんでいる内容であり、今後も県と協議していく。

【2】教育予算増・定数増のとりくみ

大分工業：3年生がタブレットを返却する際、作業がとても大変。通信がうまくできない、修理が多い、パスワードを忘れるなど、担当になった教員がとても苦勞をしている。

本部見解：タブレットの初期化等は、ICT支援員ができるようになっているが、教職員の負担がなくなったわけではない。今後も県に対してICT支援員の全校配置を要求していく。

【3】賃金引き上げ、生活向上のとりくみ

中津東定：現業の職員が、それぞれの職場にいるとよい。

本部見解：現業職については、多くの課題がある。今後も、県にしっかりと要求していく。

【5】民主的で働きやすい職場づくりのとりくみ

大分西部：「1年単位の変形労働時間制」について、このままでよいのか。今後職場で交渉等を行ったり、十分に学習をする必要がある。

本部見解：この後第4号議案で扱う。職場で討議していただきたい。

第4号議案：当面する具体的なとりくみの推進に関する件

中津東定：1月に期限付き組合員に加入した組合員がいるが、4月から新採用ということもあり不安に思っている。次の分会で温かく迎え入れられるように、本部としても体制を作ってほしい。

本部見解：異動する組合員の情報提供をしっかりと行う。

日田林工：全県一区について、知事の「こんなに大分市内に集まるとは思っていなかった」という発言に対して、組合として何かできることがあるのではないかと。

本部見解：まずは事実確認を行う。

会の最後には、大分県議会議員の浦野英樹さんより、あいさつがありました。

今回、全組合員に職場討議資料「『1年単位の変形労働時間制』は働き方改革につながらない – まずは長時間労働是正・業務削減を！ –」を配布しています。各職場で討議を行ってください。

この日は午前中に「組織拡大対策会議（第3回組織部委員会）」「第3回拡大人事闘争委員会」もあり、1日通しでの参加者もいました。みなさん、大変お疲れさまでした。